



～一人に寄り添い、未来を拓く～

猛暑と蝉の声に、夏の盛りを実感するこの頃です。地域では夏祭りやイベントが各地で開かれ、皆さまと直接お話しできることが日々の励みとなっています。夏の賑わいとともに、熱中症への注意も欠かせません。こまめな水分補給と適度な休息を心がけ、どうぞご自愛ください。皆さまの温かいお声を力に、兵庫県政のさらなる前進をめざし、街頭活動や対話を大切にしながら着実に取り組んでまいります。

党より声明発表!

「対立を超えて、誰もが安心できる平和と共生社会の構築を」

公明党ホームページはこちら



7月15日、公明党は「対立を超えて、誰もが安心できる平和と共生社会の構築を」と題して声明を発表しました。対立を超え、誰もが安心できる平和と共生社会の構築」を掲げています。協力と包摂の姿勢で、多様な人が安心して暮らせる社会安全や支援を強化します。平和を守り、みんなの権利と居場所を大切に作る社会を目指します。今後も、生活者の視点で誰もが安心できる社会づくりに取り組みます。

党声明「対立を超えて、誰もが安心できる平和と共生社会の構築を」

2025年7月15日

近年、世界の至るところで政治情勢が一変し、第二次世界大戦後に築き上げてきた国際的な連帯や協調から脱却する動きが加速しています。あたかも戦前へと逆行するかのようにより国家間の対立が先鋭化され、国際紛争や経済摩擦が深刻化しています。一方、日本では、民主主義の基盤のもと、一定の政治の安定が図られてきましたが、昨今、世代や国籍をまたいだ対立がくり出され、選挙のたびに、日本社会は協調どころか、分断の溝を深めています。

私たち公明党は結党以来、「戦争と革命の世紀」と呼ばれた20世紀において人間が国家やイデオロギーの手段と化した教訓から、綱領に〈生命・生活・生存〉を最大に尊重する「中道主義の政治」を掲げ、21世紀を「平和と人間の世紀」とするべく、大家福祉の政治に全力をあげてきました。

しかしながら、日本もこのままでは、本来の支えあいの包摂的社会から、他者を排除し分断を煽る社会になり、皮内にも戦後80年を境に、平和国家・日本としての歩みが後退を余儀なくされる懸念があります。そこで、私たち公明党は、福祉の党、平和の党として、子や孫の世代まで、対立を超えて、誰もが安心できる平和と共生社会を構築する決意を込めて、ここに党声明を発します。

- 一、政治は手段であり、目的は国民の幸福と世界平和です。私たち公明党は、分断で力を得る政治とは一線を画し、誰も切り捨てない生活者目線の改革で、あらゆる偏りを是正します。そして、差異を乗り越える相互理解、人権尊重を促進し、人間中心の中道政治を体現します。
- 二、多文化共生社会の土台は、「安全・安心」の確保です。私たち公明党は、「ルールを守る共生社会」を旨とし、いわゆる「外免切替」制度の厳格化、外国人の社会保険料の未納防止や投機的あるいは不透明な不動産取引の規制強化の検討など、実態を踏まえた政策を推進します。
- 三、社会保障制度は、世代を超えた支えあいのシステム、誰もが支えられる側になり得るセーフティネットです。私たち公明党は、医療費や社会保険料の上昇を抑制する医療DXや健康づくり・疾病予防などによって制度の持続可能性を確保し、自他共の幸福社会を構築します。
- 四、多国間の国際協調こそ、平和の礎です。私たち公明党は、核兵器使用のリスク、気候変動、緊迫する国際情勢を直視し、未来を志向する青年とともに、北東アジア安全保障対話・協力機構の創設、核兵器廃絶、AIの平和利用、防災・減災及び気候変動対策などに取り組みます。
- 五、平和と共生の社会は、包摂的で力強い社会です。私たち公明党は、所得制限など財源の制約によって政治の光が届かない人々が生まれ、結果として分断が生ずることのないよう、財源をつくり出す「日本版政府系ファンド」なども活用し、福祉政策のさらなる充実を目指します。

以上の理念及び科学的見地に基づいた政策の実現を通じて、私たち公明党は、立場や主張などの差異を超えて、すべての国民の皆さまと力を合わせ、世代、性別、国籍、障がいの有無などを問わず、この国に生きるすべての人びとが包摂され、一人ひとりが生きがいと喜び、安心と希望を持って暮らせる平和な社会を、断固として構築してまいります。

公明党代表 斎藤鉄夫



6/11

神戸の新たな賑わい拠点を視察

公明党議員団として

ジーライオンアリーナ神戸・神戸空港第2ターミナルへ



【ジーライオンアリーナ神戸】

神戸港新港第2突堤に誕生した最新鋭アリーナは、民間主導で設立され、最大1万人指名の5層客席にてスポーツや音楽、国際会議まで対応。わずか2ヶ月でほぼ満席となるイベントが続き、神戸の新しい賑やかな象徴的な存在として感を高めています。



【神戸空港第2ターミナル】

4月にオープンした新ターミナルは、「海に直接、森を感じる」をテーマに地域木材産を取り入れた温もりある設計。韓国・台湾・中国などへの国際チャーター便が導入され、仁川経由で西部ともつながり、神戸空港は今国際化への新たな一歩を踏み出しました。今後は飲食やサービス面の充実、空港周辺の観光資源向上が期待されます。



7/23
~25

文教常任委員会の管内調査で但馬・丹波地域を訪問してきました！



丹波篠山市立青山歴史村・デカンショ館



県立香住整備高等学校



デジタル社会に対応した産業教育設備を視察。近畿で2校、県内唯一の海洋科学科と普通科が。オーシャンコースのレーダシミュレーター実習教室を見学しました。